



発行所 財団法人 漁船海難遺児育英会 東京都千代田区内神田 2丁目2番1号6階 電話 03(3256)1981 FAX 03(3256)1982 水色の羽根募金運動

私の夏



高校二年生 岩野恵美子

今年、高校二年生の夏休みに、初めてアルバイトに挑戦しました。

二年は部活の真っ最中ですが、帰宅部の私たちにとってみるとアルバイトにとっても興味があります。

レストラン・コンビニ・海の家(夏だけ)などでバイトしている人がたくさんいます。母に少し反対されたけれど、私もコンビニでバイトをすることにしました。初めての試みなのでとてもワクワクしました。

一日目、緊張です。レジの打ち方・接客の仕方、すべてが何も分からなく一転して不安になりました。家に帰ると安心したのか、夕食の後はすぐに眠ってしまいました。

平成六年度 全国担当者会議を開催

去る七月七日、東京都千代田区コープビルにおいて、平成六年度全国育英事業事務担当者会議が開催されました。

当日は、日頃、育英事業にご協力いただいている各都道府県漁船海難遺児を励ます地方協議会事務局担当の漁連・信漁連・指導連・操業安全協会等の職員並びに水産庁企画課大石課長補佐、木賀田担当官、全国協議会事務局担当の全漁連沢村漁政部長、熊谷課長役、及び全国漁協婦人部連絡協議会事務局担当の全漁連組織部苗加さんが出席し、次の議題に

に合わせ、重荷に感じたのでやめました。母はよく言います。「働くことは大変だ。いろんな人がいるし、いろんなことがある。でも働く以上は責任を持つこと。」と。すこくハッと思いました。でも私はこれからです。

「本当にしたい仕事にしよう。そうすれば決して間違わない。そして仕事に責任を持って楽しく働こう。」という気持ちになりました。このアルバイトは少しの寄り道です。

これからは、大人になる土台を造る努力に励んでいこうと思っています。今年の夏は、大きな収入と小さな支出でありました。

(横須賀市立横須賀高校)

夏休みの思い出と 楽しい運動会



小学校六年生 伊藤真一郎

今年の夏は、お母さんと二人で、富山県の黒部峡谷に行ってきました。トロッコ電車に乗る前に、黒部川電気記念館で水力発電所の建設の歴史な

どが、映写やパネル等で紹介してありました。トロッコ電車に乗ってダムや発電所を見て、とてもよい景色を見ました。山はすこしすずしいかなと思っただけで、今年は猛暑だったのでとても暑かったです。また次に行くときは紅葉のときに行けたらよいと思いました。

(輪島市立河井小学校)

第二回選考委員会開催 新規奨学生三十五名を採用

七月二十五日開催された選考委員会において、七月十五日締切りの第二回奨学生出願者について審議の結果、学資給与奨学生三十一名、奨学金貸与の高校奨学生及び大学等奨学生それぞれ二名の出願者三十五名全員の採用が決定しました。

この新規奨学生を加えた平成六年度九月末の奨学生数は、別表「都道府県別奨学生数」のとおりです。なお、平成七年度大学等進学予定の貸与奨学生の予約採用者は一名で、現在までに五名となりました。

あれから十年、 心温まる日々

卒業奨学生 鈴木 敦

父が亡くなったとき私は高校一年、弟は中学一年でした。そのころ、父が亡くなったことが悪夢のようで呆然とした毎日を過ごしつつ、これからの私たちの生活はどうなるのだろうかと思っていました。そうしながら、母はいつもと変わらず明るく私たちを育ててくれました。

数年が過ぎたころだと思いましたが、漁船海難遺児育英会の奨学金を借りていることを母から聞いた私は、流されるまま日々を過ごしてきた自分に憤りを感じたものでした。

あれから十年、私も水産関係団体に就職することができ、また、弟は地方銀行へ就職し社会人として一歩一歩進んでいきました。

母親と奨学生の便りから

★母親からのお便り

☆いつもありがとうございます。娘も夏休みの間クラブ(テニス)活動に、真っ黒に焼けて元気で、頑張っています。(茨木市 橋口洋子)

☆いつもお世話様です。今年の夏休みは、子供達の生れ故郷の釧路に行ってきました。子供達はとてもはしゃいで、連れてって良かったと思います。お父さんとの思い出の地です。(札幌市 大坂明美)

☆この度は、高校給与奨学生に採用して頂きありがとうございます。子供達の姿を見て、改めて月日の経つのを感しました。同時に、こうして今があるのも、ご支援いただいている皆様方のお陰と感謝申し上げます。(那珂湊市 薄井丹美)

☆送金ありがとうございます。お盆は、親子三人で主人の墓参りに行って、主人の実家へ三泊してきました。子供達の成長をいろんな人に喜んでもらい、また、励ましてもらったりして、泣いたり、笑ったりの楽しい旅でした。(伊万里市 中邑綾子)

☆子供達もやっと平素な日々を取り戻しました。元気に暮らせるのも皆様の

先日の「育英会だより」に、育英資金がこの四年間で五億円の目標額を大きく上回ったと掲載されておりましたが、全国数多くの方々に支えられてきた私や弟には心温まる思いがしました。全国の関係団体及び数多くの皆様、そして役員の方々の皆様、長年お世話になりました。感謝しております。ありがとうございます。

今後皆様御活躍を祈念いたします。(岩手県漁船保険組合勤務) このたび、鈴木敦(あつし)さん、嘉(よみし)さんご兄弟から、お父さんを亡くされて十年という節目を機会に、お礼をかねて後輩のために役立てていただきたいと多額のご寄付をお送りいただきました。

お陰と深く感謝しております。有り難う御座います。(福井県織田町 宮地みつ子) ☆今年も帯広も記録的な酷暑に見舞われていますが、子供は元気に夏休みを過ごしております。八月二十二日より第三学期に入ります。有り難うございます。(帯広市 小川澄江)

☆学資給与のお陰で助かります。子供達もがんばっています。七月三十日です。三回忌でした。お父さんがいなくて子供達がかわいそうですが、三人でがんばります。これからもよろしくお願います。(愛媛県城辺町 竹田和美)

☆暑い毎日です。勤務している病院は、夏は来院する患者さんはほんの数人です。春や夏は、午前中に七十名程はいります。暑い方が病気になる人が少ないのは、幸いですね。今日は、給与金ありがとうございます。厚くお礼申し上げます。(市川市 小塩てる子)

☆嬉しい暑さですが、皆様お変わりございませんか。奨学金、いつも有難うございます。娘もいよいよ中学校三年の二学期を迎えますが、高校受験準備で勉学に励んでいます。夏休みも学校の補習で休みなし、元気でいます。(長崎市 石崎トシ子)

「漁船海難遺族の暮しとその環境」

海難とその家族への影響
— 母親の労苦と責任

本会では、育英事業の推進のための基礎資料として、漁船海難遺族の生活実態と、併せてその背景にある社会環境を総合的に把握するため、「漁船海難遺族実態調査委員会」を設置し、昭和五十五年度から、漁船海難遺族の実態を調査しておりますが、このたび、昭和六十一年度から平成二年度までの五か年間の調査結果をとりまとめ、「漁船海難遺族の暮しとその環境」として公表しました。

この報告書は、三章からなり、第一章は漁船海難等による犠牲者の統計的

第四十一回全水商連全国大会
長野県松本市で開催

全国水産物商業協同組合連合会第四十一回全国大会が、七月十六、十七日の両日、長野県松本市文化会館において、全国各地の関係者約二千名が参加し盛大に開催されました。

大会の両日、会場入口で協栄生命保険(株)松本支社の社員の皆様が、暑い中、積極的に募金を呼び掛け、多大の成果を挙げる事ができました。



第四十六回「全国漁港大会」
札幌に五千名参集

札幌市豊平区の月寒グリーンドームにおいて、九月七日、約五千名の水産関係者が参集し第四十六回全国漁港大会が開催されました。

に、アンケート調査と調査委員が家庭訪問により詳細な生活実態を聞き取る方法によりました。

この報告書の要旨は、次のとおりです。

一、漁船の海難事故等による犠牲者は、全国的に年々減少傾向にありますが、調査期間の五年間の本会学資給与奨学生出願者の父親の被災件数(被災者の子弟が複数出願される場合は実件数で、同一事故で複数の方が被災された場合は重複計上)は三〇〇件で、北海道をはじめ、青森、岩手、宮城、山口、福岡、長崎、大分、宮崎等の漁業主要県に多く、その事故の原因は、衝突・転覆などの漁船の海難事故によるものが二五%、海中転落・労災事故などの海難事故によらないものが六四%、病死が一%となっており(表一)。

表1 事故種類別・漁船規模別海難死亡件数

Table with 7 columns: Accident Type, Scale (Under 10 tons / 10 tons or more), Total, and Rate. Rows include Collision/Sinking, Time-related Disaster, Sea Fall, Labor Disaster, Death, and Others.

漁船の規模別にみますと、十トンの小型船では、船舶の航行の多い狭い湾内や港内で大型船等との衝突、特に、五トン未満船で一人乗りのため救助されにくい海中転落によるものが多く、十トン以上の中・大型船では、時化などの遭難によるものが割合が多くなっています。また、船内病死は、大型船でストレス等によると思われる幹部船員の心疾患、脳血管疾患などの突然死ともいえるべきが目立っております。

なお、昭和五十八年から六十三年の間に、五トン未満の小型船の夫婦操業で、夫婦が同時に亡くなった例が七ケースありましたが、遺児は年老いた祖父母が養育しております。

二、家計の収支をみますと、近年、社会保障制度は充実されてきており、遺族のうち、乗組員であった世帯のほとんどは、船員保険、労災保険の遺族年金を受けておりますが、小型船の船主が多い自営世帯では、わずか一三%に過ぎません。

したがって、地域的には、遠洋・沖合漁業を中心としている地帯の世帯では、遺族年金などの支えが乏しく、経済的には貧しくとも比較的安定しているように見受けられますが、沿岸漁業地帯では年金の支えがなく、多くの世帯は苦しい不安定な生活を余儀なくされております。

三、遺族の一月の生活費は、十五〜二十五万円に七五%の世帯が集中しておりますが、収入の内訳では、船員保険、労災保険、母子年金などの年金が六割程度で、多くの世帯は母親や家族の働きにより家計を補っております(表二)。

表2 1カ月の生活費

Table with 3 columns: Income Range, Number of Families, and Rate. Rows include ~100,000 yen, 100,000-150,000 yen, 150,000-200,000 yen, 200,000-250,000 yen, 250,000-300,000 yen, 300,000 yen+, Total, and Average.

注: 無回答21世帯を除く。

地域により差はありますが、母親が事故以前から働いていたのは、二六%で、事故三年後には約七〇%に増加しております。

働いていない母親は、「働いていないが身体をこわした」、「身体が弱いかから」と健康上の理由が多く、そのほか、「年をとった」、「働く場所がない」、「失業した」など、働きたいが働けないケースが多くみられます。

職種としては、水産加工、魚の選別、養殖、はえ縄作りなど、やはり漁業関係の仕事が多いのですが、厳しい漁業環境から漁業関係の仕事が減少してきております。また、地場産業や企業の進出による先端技術の職種や縫製などの内職の方もみられますが、いずれも日雇・パートが多

く、安定しているとはいえません。四、父親を亡くされて、子供の高校以上の進学に影響があったという世帯は四〇%以上を占めておりますが、その理由として経済的なものが多く、そのため、やむを得ず高校進学を断念して就職、普通高校から実業高校、高専、定時制への変更や、中退したケースもあります。

調査時、既に学校を終了していた方は三一〇名、そのうち、高校以上の卒業が約八〇%を占めており、前回の昭和五十五年から五十九年の調査に比べて増えております。現在

は、さらに高校以上への進学率は高まっていくと考えられますが、一般に比べると依然として低い率と思われる。なお、卒業後、就業した方は一五一名で、そのうち、漁業に従事した方が中学校卒業の一六名を含めて二三名となっております。

五、父親の事故後、母親の困ったこととしては、「家計のやりくり」を筆頭に、「子供の教育問題」、「自分の職探し」、「仕事と育児の両立」、「家族の健康問題」など生活費や子供の将来のことを挙げる方が多く、そのほか、「見近に相談相手がない」、「親戚との関係」などを挙げる母親も少なくありません。

これらの調査の結果からも事故のショックを越えて経済的・精神的負担を抱え、自分の老後のことを考える余裕もなく働く母親の姿が浮き彫りにされております。

◎この調査の実施に当たって、各関係機関、並びに遺族の方々のご協力に對して心から感謝申し上げます。また、本調査の企画・調査・取りまとめをいただきました「漁船海難遺族実態調査委員」の諸先生のご尽力に對して厚くお礼申し上げます。

原稿をお待ちしています

○題材は自由です。最近の出来事や、詩、随筆、「育英会だより」に対するご意見、ご要望をお寄せ下さい。原稿は八百字以内で、顔写真を添えて左記あてにお送り下さい。○イラスト、写真もお待ちしています。

〒一〇一

東京都千代田区内神田二一

鎌倉河津ビル内

(財)漁船海難遺児育英会

「育英会だより」係

〇三一二五六一一九八一

